

総務建設常任委員会視察研修報告

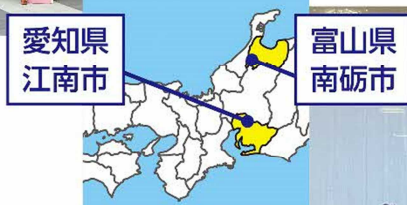
葛 城 市 議 会
総務建設常任委員会

令和 5 年度視察研修概要

〈日 程〉 2023 年（令和 5 年）7 月 3 日(月)～4 日(火)

〈研修先〉 1 日目： 愛知県江南市
2 日目： 富山県南砺市

〈参加者〉 総務建設常任委員会委員 8 名
吉村 始 委員長 松林謙司 副委員長
西川善浩 委員 横井晶行 委員 梨本洪珪 委員
川村優子 委員 増田順弘 委員 下村正樹 委員
〈随行者〉 高垣倫浩 企画部長 吉田和裕 庁舎機能再編推進室長
岸田聖土 議会事務局総務課主事



■ 1 日 目 ■

〈江南市視察の目的〉

現在、葛城市では當麻文化会館を全面改修し、本来の文化会館機能に加え、近接する當麻図書館と市役所の総合窓口（當麻庁舎）の機能を取り込んで一つの複合施設にする計画を進めている。庁舎機能再編推進室が複合施設整備基本計画推進のための業務を遂行しており、市議会では「當麻庁舎の危険性排除に伴う機能再編に関する特別委員会」を設置して議論を続けている。

改築、新築を問わず、図書館等を含んだ複合施設は、市民が集う賑わい創出を一つの目的としており、葛城市の複合施設も例外ではない。また、葛城市の複合施設は公共施設のみだが、将来的には當麻庁舎周辺エリア内に民間活力を導入することも視野に入れている。

したがって、公共複合施設と民間施設との相乗効果により人流や賑わいを創出している自治体の施設計画ひいてはファシリティ計画に学ぶ必要がある。江南市が、これらに合致する施設を本年4月に開館されるに至ったので、当市の視察を行うこととした。

〈江南市の概要〉

江南市は、名古屋都市圏の一部を形成している。自然に恵まれた一方で、名古屋市へのアクセスも良好で、都市と自然が融合した環境が特徴と言える。

経済面では、製造業を中心に様々な企業が進出している。また、都市と農村の両方の要素を持つ地域であるため、都市機能と農業、両方の発展を図っている。

文化面では、地元の祭りなどが盛んで、地域の伝統と新しい文化が融合している。

・市制施行年月日	昭和 29 年 6 月 1 日
・人 口（令和 5 年 5 月末日現在）	98,806 人
・世帯数（令和 5 年 5 月末日現在）	42,609 世帯
・面 積	30.20 km ²
・人口密度	3,272 人/km ²
・令和 5 年度一般会計当初予算額	29,436,155 千円

<会 場> t o k o + t o k o = l a b o （トコトコラボ）

<説明者> ・総務部財政課 課長 : 安達則行様
・総務部財政課 資産経営グループリーダー : 大池慎治様
・企画部秘書政策課 企画グループリーダー : 千田尊義様
・議会事務局 : 鶴見吉宏様

◆ 研修内容 ◆

「布袋駅東複合公共施設について」

■ t o k o + t o k o = l a b o （トコトコラボ）（布袋駅東複合公共施設）の概要
令和 5 年 4 月供用開始

1. 全体計画の主旨

- 1) 暮らしが花ひらく生活都市をより豊かに彩る拠点
 - a. 駅の東西の一体感を生む布袋駅周辺のまちづくりの起点となる施設
→布袋駅の高架化に合わせて整備し、線路による分断を解消した。
 - b. 東西駅前広場と公共施設および民間施設の一体感をつくり出す施設配置
→公共施設は布袋駅の顔となり、電車利用者の来訪を促す。

2. 公共施設設計の主旨

- 1) 公共施設と民間施設の一体化
 - a. 施設内の情報・場所にアクセスできるメインストリート
→東駅前広場→公共施設→民間施設が一直線で市民の自由な通行可能。
 - b. 様々な機能とつながり、多彩な機会に触れ、交流を促進するホール
→エントランスホールを多彩な交流を誘発する場にする。
- 2) これからの江南らしい華のあるデザイン
 - a. 建物デザインの考え方
→江南市の地理的特性や名跡を建築デザインに採り入れている。

・規模

敷地面積 約 9,081 ㎡、建築面積 約 5,062 ㎡、延床面積 約 15,649 ㎡

・フロア構成と入居施設

フロア	施設名	開館時間
1 階	地域交流センター	午前 9 時～午後 9 時 30 分
2 階	保健センター	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
	こども家庭センター	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
	子育て支援センター	午前 9 時～午後 4 時 30 分
	ファミリー・サポート・センター	午前 8 時 30 分～午後 5 時 15 分
3・4 階	図書館	午前 9 時～午後 8 時



■主な質問と回答

質問 1) 江南市における公共施設の課題など、本施設建設に至った理由については？

→ 江南市の公共施設には、30 年以上経過した建物が 8 割を占めるなどの課題が存在する。少子高齢化の影響で財政状況が厳しく、2055 年までに約 304.4 億円の財源不足が見込まれるため、公共施設の再構築が必要。一方で、布袋駅東の工場撤退に伴い、地域活性化と子育て支援の一元化を目指して、官民複合施設の建設が計画された。当初の構想には保健センターや子育て支援センター、子ども図書館などが含まれていたが、老朽化していた市立図書館の国庫補助金活用を考慮し、子ども図書館から市立図書館への変更が行われた。

質問 2) 本施設オープン後の市民や、議会からの評価については？

→ 新図書館は広さが 3.5 倍となり、各世代から幅広く利用され、滞在型図書館としての機能が強化されている。子育て支援センターは立体駐車場からのアクセスやベビーカー利用時の利便性が評価されている。ストリートピアノは演奏者からの口コミでの評価が高く、よく活用されている。駅前広場と公共施設の整備による駅東側の賑わいは市民や議会からも評価されており、今後は駅西側の活性化への要望が多く寄せられている。

■■委員の所感■■

- ・布袋駅の東側駅前広場に複合公共施設が建設されたことにより、駅東地区への起点と同時に電車で江南市を訪れる人の玄関口としての役割を果たしている。視察当日は平日の午後なのに、多くの高校生や来訪者が図書館や学習室を利用していた。本市が施設複合化事業を進めるにあたって、図書館の運営形態(指定管理者制度)や賑わいの創出のため、食品スーパーなどの民間施設などとの連携も検討すべきだと思う。(委員 1)

- ・驚いたのは、学校帰りの制服を着た学生が、オープンスペースを埋めるほど居たことだ。テラス前の1階に若い人達が自然と集う仕掛けは、とても有効であると感じた。また、市立図書館内に設置されている「イベントホール」は、駅前の景色やボードゲームが楽しめるなど、施設の象徴として付加価値が高いスペースだと考える。その他にも「おはなし広場」や「コワーキングブース」など、様々な世代の人々に喜ばれる工夫が利用者目線で施されており、ヒントの多い施設だった。(委員2)
- ・施設内においては全体に、高校生の姿が多く、近隣の環境から学生にとっては便利な拠点となっているように見受けられた。図書館においては、特に自習室の充実ぶりが目を引いた。これは民間の持つセンスによるものであろう。ただ、本市にこのような環境を整備しても同じような効果は期待できるのかは疑問である。しかし、複合施設全体の魅力という点においては非常に参考になった。(委員3)
- ・布袋駅東複合公共施設の整備計画は、葛城市の公共施設の複合化や行政機能のワンストップ化という視点から見れば類似していて、江南市の人口規模は葛城市の2倍以上だが参考になる点が多いにあった。公共施設の統廃合を含めた再構築を早期に実現することで、駅前再開発と子育て支援のワンストップ化を主眼に整備計画が打ち出された。賑わいと安心して住み続けられる「まちの交流施設」を基本コンセプトとし、利便性の高い、集客が見込める施設(スーパーや民間保育所等)と子育て支援を中心とする交流センターや、貸出だけでない滞在型図書館としても活用されている。(委員4)
- ・今般の研修で着目した点は、事業スキームであった。公有地に民間施設を呼び込むため一般的なPPP/PFI制度の活用を検討されたが、図書館機能を複合施設に盛り込むことで国からの有利な交付金の調達を行い、資金については江南市、設計・建設・維持管理・運営については、民間に委託し、民間のノウハウを最大限活用する事業形態をとられたとのことであった。今般、葛城市が進める複合施設にあってもまずは、どのような事業形態で行うかの検討が必須であると感じた。(委員5)
- ・実に図書館面積が公共施設全体 7497 m² の内で、3723 m² (約 50%) を占めていた。書籍は 16 万冊でスタッフ数は約 20 名(有資格者 73% 含) だった。現在、葛城市においても当麻文化会館の複合化を計画されているが、比較して色々と“検討要素ある”施設であった。(委員6)
- ・図書館の他にも、子育て世代が親子で憩えるようなスペースがあったり、高齢者が集えるような貸しスペースがあったりなど、幅広い年齢層の方が利用できる施設だと感じた。(委員7)

■■委員長の所感■■

布袋駅東複合公共施設は、商業施設を隣接させた駅前施設ということもあって、1階のオープンスペースには学生をはじめとする市民が集い、賑わい創出に成功していると感じた。2階には子育てに関する施設が、3、4階には図書館が入居しており、滞在型の施設としての体裁が整っている。新築ということもあって、外観内装ともにスタイリッシュで明るく清潔な雰囲気で、これらのことは、當麻文化会館を全面改修して造る複合施設の目的にも合致しており、大変参考になった。

私見だが、指定管理で運営されている図書館は奇をてらわず、書庫施設も充実しており、書架の並びも利用者に分かりやすく図書館の基本的なサービスがきちんに行われている印象だった。本市での今後の議論に資する視察となった。(委員長：吉村 始)

■ 2 日 目 ■

〈南砺市視察の目的〉

かねてより、自治体におけるデジタルトランスフォーメーション（D X）の必要性が「効率的な業務運営」「情報の透明性」「市民サービスの向上」「危機対応の強化」「地域の活性化」などの視点から強調されてきた。D Xの導入による利益は多大なものがあるが、その一方でD Xに対応した人材の育成、高齢者等のデジタルデバイド（格差）、セキュリティ等の課題も存在する。これらの課題を克服することが自治体の持続発展のために重要と考えられる。

8つの自治体が合併によってできた南砺市は市域も広大なため、当初から上記のような課題をD Xによって解決しようとする機運があった。そのための推進体制を構築され、大学の研究機関とも協力関係を築いておられる。

南砺市同様、合併で誕生した葛城市は、複数の施設を維持するなど類似する点も多い。南砺市はD Xの先進地として知られる存在であり、当市の視察を行うこととした。

〈南砺市の概要〉

南砺市は、4町4村が合併して葛城市と同じ2004年に誕生した。

地域の自然や伝統文化を大切にすると共に、産業振興にも積極的である。製造業を中心に様々な産業が発展しているが、農業も盛んで、特にコメの生産が評価されている。

文化的には、井波彫刻が工芸品として全国的に知られている。この地域では、伝統的な技術を継承しつつ、新しい技術やアートの形を模索し続けている。市域は葛城市の20倍に及び、自然豊かな四季折々の風情を楽しむことができる。

・市制施行年月日	平成16年11月1日
・人 口（令和5年5月末日現在）	47,290 人
・世帯数（令和5年5月末日現在）	17,509 世帯
・面 積	668.64 km ²
・人口密度	72 人/km ²
・令和5年度一般会計当初予算額	33,130,000 千円

<会 場> 南砺市役所

<説明者>	・D X推進室 室長	: 海江田浩様
	・D X推進室 主幹	: 櫻井義雄様
	・総務企画常任委員長	: 畠中伸一様
	・議会事務局 副主幹	: 田中輝美様

◆ 研修内容 ◆

「DX推進計画について」

■南砺市デジタル・トランスフォーメーション推進計画

(令和4年1月1日～令和8年3月31日)の概要

1. 計画の趣旨 情報通信や人工知能（AI）などの技術進歩により、働き方や生き方、価値観などが大きく変わろうとしており、社会の変化を受けよりよい市民生活の実現のため、南砺市として具体的なICT活用をいかに進めていくかの指針として策定された。

2. ビジョン 南砺市では、人を中心として考え、最初からあらゆる利用者を想定し、格差拡大につながっていないか常に気配りしながら運用してサービスの向上につなげる「誰ひとり取り残さない人にやさしいデジタル化」を目指している。

3. DXとは 社会の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して行政サービスや地域づくりの手法を変革するとともに、業務そのものや組織、業務の進め方を変革し、市民の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる取組だと南砺市では定義している。

4. 四つの分類 南砺市では、計画の策定実行のため「子育て・高齢者」「行政のデジタル化」「まちづくり」「産業・観光」の四つに分類し、特に小規模多機能自治のコミュニティ支援、AIチャットボットを活用した行政相談、公共交通のDXに尽力している。



■主な質問と回答

質問 1) D X 推進本部の体制は？

→ D X 推進本部の本部長に市長、副本部長に副市長・教育長、本部員に部局長を配置している。指導・助言を受けるために、東京大学 関本研究室（「デジタル南砺」推進パートナーシップ協定）、C S R（企業の社会的責任）活動について積極的な地元企業、ソフトバンク株式会社（包括連携協定締結）等と連携している。

質問 2) 全職員に対する研修等、D X 推進のための人材育成は？

→ D X を推進するという意識をすべての職員が自覚し、デジタル技術やデバイスを理解して業務に適切に活用する能力の向上を図るための講演会を全職員を対象に開催した（同じ内容を 2 回、300 人余の職員が参加）。

■■委員の所感■■

- ・南砺市は分庁舎方式がとられているが、町村合併による行政サービス低下の抑止を目的として庁舎と主な公共施設とを光ファイバーで接続し、市民は総合窓口で手続きできるサービスが実現した。80%が山林で市域も広い南砺市は以前より ICT 活用に積極的に取り組んできており、様々な試みが行われてきている。葛城市も分庁舎方式(機能分散)がとられている。更なる DX 推進の可能性を検討すべきであると思う。(委員 1)
- ・南砺市の「DX 推進計画」は、あらゆる世代の市民にとって、理解しやすい形で掲げられていた。具体的な取組みに関しては、葛城市と似たようなものも多くあったが、推進体制の整備として DX 推進本部が設置され、庁内全域にまたがる調整がされているところは参考になると考える。また、東京大学関本研究室との推進パートナーシップ協定や、ソフトバンクと DX 推進に関する包括連携協定を締結するなど、産官学の連携をうまく活用しているところが先進的であると感じた。(委員 2)
- ・行政事務は、他の業界と比較するとまだまだアナログな部分が多く見受けられるが、原因は組織内にコスト意識が低いことにあると思う。今企業が盛んにデジタル化、ロボットの導入に力を入れているのは、コスト中最もウエートが高いのは人件費であり、これをいかに減らすかである。南砺市も葛城市も対等合併で誕生し、地域格差のない市内全域への行政サービスが求められている。そのためにはデジタル化を積極的に取り入れる必要があるが、それには南砺市のように産官学の連携が重要である。(委員 3)

・南砺市の主な取り組みとして「南砺市全域に光ケーブル整備が完了（令和２年）」「デジタルデバイド対策として、ビデオ通話システムのそくさいネット『ふれ iTV』を導入（平成 30 年度）」「小規模多機能自治組織として地域づくり協議会有り、中間機構が南砺市と地域住民の橋渡しを担う」「事務系の定型作業を自動化・代行する R P A を導入（平成 30 年度）」。

今後においては情報セキュリティ対策については課題としては残るが、住民のためのデジタル化は大いに先進的である。（委員 4）

・南砺市の D X 推進の背景には広大な面積の中に散居する集落があり、全国的な課題でもある少子高齢化現象も進むため、誰一人として取り残すことのないサービスを市民に享受してもらうための手法としておのずと進められた経緯があるように感じた。自身が注目したのは、南砺市子育て支援アプリ「なんと H u g 」で、妊娠期から切れ目ない子育て支援が行えるもので子育てに関する全ての窓口を一元化し情報発信から交流・相談まで行えるとのことであった。葛城市にも参考になる取組の一つである。

（委員 5）

・南砺市は、平成 16 年の合併時に比べて人口が 12,000 人減の厳しい状況だ。南砺市では、旧町村役場を出先機関として利用しており、行政サービスが低下しないよう D X 推進計画を進めてきた。現在や未来の葛城市と比較して色々と検討要素があった。

（委員 6）

・南砺市では元々、光ケーブルの整備や、総合窓口の設置、電子決裁の導入といった、効率的に業務を行うための仕組みを他の自治体より先進的かつ積極的に取り入れている背景があった。現在、誰ひとり取り残さない人にやさしいデジタル化を目標に、D X 推進計画を策定し、職員研修によるデジタル人材の育成や、民間企業や大学との連携、様々な実証実験や補助事業の活用等に取り組んでいる。葛城市においては、電子決裁や、総合窓口の設置、AI の活用など既に取り組んでいる事業は多いが、デジタル人材の不足など、積極的に取り入れる体制が整っていないように感じた。（委員 7）

■■委員長の所感■■

琵琶湖の面積とほぼ同じという南砺市の市域の広さは、バスで高速道路を延々と走って実感した。市の 8 割が山林で、高齢化率も高い。旧 4 町 4 村の庁舎も維持しておられる。このことによる諸課題「効率的な業務運営」「情報の透明性」「市民サービスの向上」「危機対応の強化」「地域の活性化」等を解決するために D X の推進は必然のように思える。

広大な市域は「効率的な業務運営」からすれば負担になりうるが、反面、豊かな自然とそれにとまなう奥深い文化や産業、観光資源等が多く存在し、「地域の活性化」に繋げることもできる。これらに積極的に D X を活かそうとする姿勢に学ぶところが大きかった。

D Xについては本市が進んでいるところもあり、市職員同士の今後の交流も期待できる視察となった。（委員長：吉村 始）